

## はじめに

和歌山県環境衛生研究センターは、本県の環境及び保健行政を科学的・技術的に支える中核試験研究機関として、試験・検査、調査研究業務や技術指導・研修及び情報の収集・解析・発信を行うほか危機事象発生の際に迅速に対応できるよう日々業務を行っています。

新型コロナウイルス感染症がようやく落ち着きを見せ、本年5月には感染症法上の位置付けが5類へ移行されましたが、今回のパンデミックを契機に地方衛生研究所の役割・重要性が再認識されました。危機対応と同時に健康危機管理における専門技術的な拠点としての機能が発揮できるよう、平時のうちから有事に備えた体制の強化が求められているところであり、必要となる人材を確保するとともに健康危機管理体制の強化を図ってまいります。

この他、衛生研究部では食中毒や感染症の原因である病原微生物の検査、食品中の残留農薬や添加物等の検査及び調査研究に、環境研究部では工場・事業場排水や公共用水域の水質調査、大気・放射能等の測定や災害発生時を想定した環境汚染物質の迅速モニタリング手法の開発等の調査研究にそれぞれ取り組み、その成果を地域の保健衛生及び環境保全対策に反映しています。

現在、当センターは令和7年4月の供用開始に向けた再整備を進めているところであり、施設・設備面での機能強化と併せて、人材育成・組織強化を図り、県民が健康で安心して暮らせる快適な生活環境の実現のため、より一層研鑽<sup>けんさん</sup>に励み、技術の向上に努めてまいります。

ここに、令和4年度の業務・業績を取りまとめましたので、関係者の皆様に御高覧いただき、御指導・御鞭撻<sup>べんたつ</sup>を賜りますようお願い申し上げます。

令和 5年12月

和歌山県環境衛生研究センター

所長 村上 毅

